

2023年度第1回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○ あやめ賞

あやめは、アヤメ科の多年草。日当たりのよい乾燥した草地に自生する。初夏、花茎の先に黄色い筋のある紫または白色の花を咲かせる。アヤメ科には、カキツバタ、シャガなども含まれる。花言葉は「よい便り」「希望」。

○ 葉ステークス

葉（しおり）は、読みかけの書物に挟んで目印とするもの。本競走は、整備工事前の京都競馬場において最終日に実施された競走で、お客様との再会の目印となることをイメージして名付けられた。

○ 京都競馬場グランドオープン記念

本競走は、京都競馬場のグランドオープンを記念して実施される。三冠馬が誕生する競馬場にちなんで「三冠馬メモリアルロード」、馬の見やすさを考慮した「パドックリング」が新たに創設された。また、旧パドック中央にあったクロガネモチは老朽化のため取りのぞかれ、新スタンド内に大時計となって生まれ変わっている。

<第2日>

○ 比良山特別

比良山（ひらさん）は、滋賀県の琵琶湖西岸に連なる比良山地の高峰群。蓬莱山・武奈ヶ岳・打見山などが並んでいる。近江八景のひとつ「比良の暮雪」に数えられた景勝地。

○ センテニアル・パークステークス

センテニアル・パークは、京都競馬場の愛称。淀に競馬場が開設されて令和7年で100周年を迎えることにちなんで名付けられた。

センテニアル（Centennial）は、「100年の、100周年の」を意味する英語。

○ 読売マイルズカップ（GⅡ）

本競走は、マイル路線の拡充を目的として昭和 45 年に創設された重賞競走。『安田記念』の前哨戦として位置付けられ、春の短距離路線を歩む馬にとって重要な競走となっている。幾度かの変更を経て、平成 24 年より阪神競馬場から京都競馬場に移設され現在に至る。なお、第 1 着馬には同年の安田記念への優先出走権が与えられる。

読売新聞社は、東京・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 3 日>

○ 矢車賞

矢車（やぐるま）は、矢車草の略。ユキノシタ科の多年草。5 枚の小葉が円形に配列された形が特徴。6～7 月頃、花茎の上部に小さな花が円錐状に集まって咲く。

○ 六波羅特別

六波羅（ろくはら）は、京都市東山区の一地区。平安時代からの歴史上の要地で、平氏一門が拠点としていた。鎌倉時代には六波羅探題が設置され、京都朝廷方の監視など鎌倉幕府の政務を執行する役割を担っていた。

○ 朱雀ステークス

朱雀（すざく）は、中国の伝説上の神獣で、四神のひとつ。南方を守護する聖なる鳥とされる。中国唐の時代の条坊制を用いた都城でのメインストリート朱雀大路と呼ぶ。日本でも、平安京の大内裏の南門中央部に位置する朱雀門から、南端の羅城門までの通りを朱雀大路と呼ぶ。

<第 4 日>

○ 糺の森特別

糺の森（ただすのもり）は、下鴨神社の境内に広がる森。『源氏物語』や『枕草子』など、多くの物語や詩歌に登場する名所。ケヤキ・ムク・エノキなど、多くの樹木が自生している。

○ 御池特別

御池（おいけ）は、京都市の中央を東西に通じる幹線道路の名称。名は、二条城の南にある神泉苑の池の前を通ることに由来する。沿道には神泉苑のほか、本能寺や京都市役所などがあり、日本三大祭のひとつである祇園祭では、山鉾（やまぼこ）巡行のコースとなる。

○ 端午ステークス

端午（たんご）は、五節句のひとつ。「端」は初めの意味、「午」は「五」に通じ、「5 月初めの 5 日」という意味。江戸時代以後、男子の節句とされ、鎧や兜を飾り、こいのぼりを立て、成長や立身出世を願った。現在は、国民の祝日「こどもの日」となっている。

○ 天皇賞（春）（G I）

本競走は、明治 38 年（1905 年）5 月 6 日に横浜の日本レースクラブが、明治天皇から『菊花御紋付銀製花盛器』を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。翌 39 年以降は 7 つの競馬倶楽部で『帝室御賞典競走』が実施されたが、昭和 12 年に日本競馬会が誕生したのを機に、『帝室御賞典競走』は春が阪神、秋が東京と、年 2 回東西で実施されることとなり、戦争で中断される 19 年春まで続いた。戦後の 22 年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の『天皇賞』に改称され、春は京都、秋は東京で実施されることとなった。

○ 東大路ステークス

東大路（ひがしおおじ）は、京都市の東部を南北に走る大通りのひとつ。高野から東福寺付近まで通じている。沿道には京都大学のキャンパスのほか、知恩院や八坂神社など観光客で賑わう神社仏閣も多い。

<第 5 日>

○ 鴨川特別

鴨川（かもがわ）は、京都市街東部を貫流し、桂川に注ぐ川。京都北山の棧敷ヶ岳付近に源を発する。高野川との合流点から上流を賀茂川、下流を鴨川と記し、総称では鴨川を用いる。三条大橋・四条大橋・五条大橋など 20 余の橋が架かり、四条河原は納涼地として有名である。

○ 平城京ステークス

平城京（へいじょうきょう）は、元明天皇の和銅3年（710年）に藤原京から遷都し、桓武天皇の延暦3年（784年）に長岡京に遷都されるまでの都。京城は現在の奈良市から大和郡山市に及び、主要部は東西約4.3km、南北約4.8km。北端中央を平城宮とし、その南面中央から南下する朱雀大路の東側を左京、西側を右京、左京の東側へ張り出した部分を外京と呼んだ。

○ 京都新聞杯（GⅡ）

本競走は、昭和28年に『京都盃』の名称で創設された重賞競走。42年に『菊花賞』のトライアルレースに指定され、44年にはそれまでの別定重量（31年・34年・35年はハンデキャップ戦で実施）から定量に移行、46年に名称も『京都新聞杯』と変更された。さらに59年には距離が2200mに延伸されるとともにGⅡに格付けされた。平成12年に『菊花賞』の実施時期が繰り上げられたのに伴い、春季に移設された。この際、競走条件についても2000m・GⅢに変更されたが、13年から再びGⅡとなり、14年には2200mへと延伸された。

京都新聞は、京都新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 烏丸ステークス

烏丸（からすま）は、「烏丸小路」の略。東洞院大路と西洞院大路の間にあり、現在の烏丸通りとほぼ同じものを指す。烏丸通りは、京都市の市街地中央を南北に通じる主要道路で、通りに沿って東本願寺・京都御所・六角堂・護国神社などの歴史的建造物がある。

○ 橘ステークス（L）

橘（たちばな）は、ミカン科の常緑小高木。日本原産唯一の柑橘類とされ、四国・九州・沖縄などに自生する。初夏に芳香のある白色の五弁花を咲かせる。京都御所紫宸殿（きょうとごしよししんでん）の「右近の橘」が有名。花言葉は「追憶」「永遠」。

○ 鞍馬ステークス

鞍馬（くらま）は、京都市左京区にある地名。奈良時代に創建された鞍馬寺は、後の源義経となる牛若丸が厳しい修行を行ったことや、山に住む鞍馬天狗から武芸を習ったという伝説で有名。

<第7日>

○ 京都ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、平成11年に創設された障害重賞競走。高さ80cm、幅約16mのバンケット障害を使用し、遠近感の乏しい競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高い競走となっている。

○ あずさ賞

あずさは、カバノキ科の落葉高木。深山に自生し、高さ20mにも達する。堅く弾力があるこの木で作られた弓は梓弓と呼ばれ、神事などに用いられる。

○ 上賀茂ステークス

上賀茂（かみがも）は、賀茂川と高野川の合流点から上流部の賀茂川流域一帯。賀茂別雷（かもわけいかづち）神社（上賀茂神社）を中心に社家町が形成されている。同神社では、毎年5月5日に日本最古の競馬と言われる「賀茂競馬（かもくらべうま）」が行われている。

○ 都大路ステークス（L）

都大路（みやこおおじ）は、京都市内を縦横に走る通りの総称。都の大通り、都の幅広い主要な道路のこと。京都は碁盤の目状に区別された平安京を基に発達した町で、現在でも三条通、四条通といった当時を偲ばせる呼び名の通りが残っている。

<第8日>

○ 白川特別

白川（しらかわ）は、京都市北東部を流れる川。比叡山地に源を発し、祇園付近で鴨川に合流する。また、白川流域一帯の地名。古くは鴨川以東、東山との間の地区を指した。

○ 錦ステークス

錦（にしき）は、京都市中京区にある市場の名称。色鮮やかなアーケードにおおわれた石畳の道が390m続き、京都の旬の食材や京野菜、京漬物などを扱った店が多数軒を連ねている。

○ 栗東ステークス（L）

栗東（りっとう）は、滋賀県南部の市。野洲川南岸の平野と信楽山地北斜面の丘陵地を占める。米や野菜の生産が盛んな一方で、化学・金属・機械工業などの工業地帯としても発展している。

なお、同市には JRA の競走馬調教施設である栗東トレーニング・センターがある。

<第9日>

○ メルボルントロフィー

メルボルンは、オーストラリア第 2 の都市。ヴィクトリア州の州都でもある。フレミントン競馬場で毎年 11 月に行われる『メルボルンカップ』当日は、同州の休日に指定され、オーストラリア最大級のイベントとして大きな注目を集める。

○ オーストラリアターフクラブ賞シドニートロフィー

オーストラリアターフクラブは、平成 23 年 2 月にシドニー地区の 2 つの競馬クラブを統合して設立された団体。所有競馬場として、ロイヤルランドウィック競馬場・ローズヒルガーデンズ競馬場・ウォリックファーム競馬場・カンタベリーパーク競馬場が有名。

シドニーは、オーストラリア第 1 の都市。ニューサウスウェールズ州の州都でもある。ハーバー・ブリッジやシドニー・オペラハウスなどが観光地として世界的に有名。

○ 平安ステークス（GⅢ）

本競走は、平成 6 年に創設された重賞競走。25 年に距離が 1800m から 1900m に延伸され、時期も 1 月から 5 月に移設して実施されている。

平安（へいあん）は、平安京の略称。平安京は、延暦 13 年（794 年）に長岡京より遷都された都で、大きさは東西 4.5km、南北 5.2km。平安遷都 1100 年を記念して明治 28 年（1895 年）に建立された平安神宮は、大極殿と応天門を模造し、平安京大内裏の朝堂院を 3 分の 2 に縮小し復元している。祭神は桓武天皇で、昭和 15 年に孝明天皇が併せ祀られた。秋には京都三大祭のひとつである「時代祭」が行われる。

○ レーシングオーストラリア賞オーストラリアトロフィー

レーシングオーストラリアは、平成 27 年 4 月、オーストラリアンレーシングボード・レーシングインフォメーションサービスオーストラリア・オーストラリアンスタッドブックを統合して設立された団体。競馬番組の認可、調教師と騎手の免許交付、血統登録などの業務を行っている。

オーストラリアは、オセアニアのオーストラリア大陸を占める連邦制の国。首都はキャンベラ。

<第 10 日>

○ 紫野特別

紫野（むらさきの）は、京都市北区の地名。この地で桓武天皇が狩猟をした記録があり、当時、洛北七野のひとつに数えられていた。臨済宗大徳寺派の本山である大徳寺や、やすらい祭で有名な今宮神社がある。

○ 鳳雛ステークス（L）

鳳雛（ほうすう）は、鳳凰の雛のこと。また、将来が期待される優れた才分を持つ人物の雅称。中国の『三国志』で、軍師として有名な龐統は「鳳雛」と称され、周囲から将来を囑望されていたと言われている。

○ 高瀬川ステークス

高瀬川（たかせがわ）は、京都市中南部にある運河。17 世紀初め角倉了以（すみのくらしょうい）が鴨川沿いに開いた鴨川の分水路で、伏見を経て宇治川に通じる。名は、貨物運送の高瀬舟が上下したことに由来する。森鷗外の『高瀬舟』や、吉川英治の『宮本武蔵』などの中で描かれている。

<第 11 日>

○ 御室特別

御室（おむろ）は、京都市右京区東部の地名。衣笠から御室に続く一帯には金閣寺・竜安寺・等持院・仁和寺など由緒ある寺院が多く、観光客で賑わう。南部に位置する双ヶ岡の西麓は、吉田兼好が庵を結んで『徒然草』を書いたことで知られる。

○ 桃山ステークス

桃山（ももやま）は、京都市伏見区の地名で、宇治川の北岸の地域。江戸時代に、かつて豊臣秀吉が築いた伏見城が取り壊され、その跡地に桃の木が植えられたことに由来する。

○ 葵ステークス（GⅢ）

本競走は、スプリント路線の拡充を目的として、平成30年に創設された3歳馬限定の重賞競走。令和4年よりGⅢに格付けされ、芝1200mの別定重量戦で実施される。

葵（あおい）は、アオイ科の植物の総称。また、家紋のひとつで、フタバアオイの葉を図案化したもの。賀茂神社の神紋に由来し、徳川氏の葵巴の紋などが有名。同神社で5月15日に行われる葵祭は、石清水祭、春日祭とともに三勅祭のひとつに数えられる。

<第12日>

○ 與杼特別

與杼（よど）は、京都競馬場のある京都市伏見区「淀」の古称。同地には、鉄器の製造や稲作、機織りを伝えた秦一族が住んでいたことから、横糸を通す織物の道具である「杼（ひ）」にちなんで「與杼」という名が伝えられたとされている。京阪電鉄淀駅近くには與杼神社がある。

○ 安土城ステークス（L）

安土城（あづちじょう）は、滋賀県近江八幡市にあった城。現在は城跡全体が特別史跡に指定されている。天正7年（1579年）に織田信長が天下統一の拠点として築城した。信長は、その3年後に京都の本能寺で明智光秀に襲われ、安土城はそれに続く山崎の戦いの余波で焼失した。

○ 白百合ステークス（L）

白百合（しらゆり）は、ユリ科の一種で花の白いユリのこと。5～8月頃に花を咲かせ、主に観賞用として栽培される。花言葉は「純潔」「無垢」。

○ 渡月橋ステークス

渡月橋（とげつきょう）は、京都市右京区桂川に架かる全長155mの橋。付近にそびえる嵐山の景色を眺めながら、ボート遊びや屋形船、夏には鵜飼を楽しむことが出来る。